

第2回 筑後川学識者懇談会 議事要旨

日 時：平成27年5月22日 14:00～15:30

場 所：国土交通省筑後川河川事務所会議室

出 席（委 員）：楠田委員、古賀委員、小松委員、駄田井委員、徳田委員、松井委員、
矢野委員（以下○：委員意見）

（事務局）：国土交通省 筑後川河川事務所長 他（以下●：事務局発言）

（水機構）：水資源機構 筑後川局長、朝倉総合事業所長 他（以下◎：水機構発言）

1. 副委員長の選出について

- ・島谷副委員長が辞任の為、規約第5条3に基づき、委員長が副委員長を指名
- ・矢野委員を副委員長に選出

2. 議 事

議事1) 現整備計画内容の点検【資料-1】

- ・事務局より「前回指摘事項への対応」及び「前回資料との変更点」について説明

（主な質問）

- 高潮堤防の整備について、気候変動に伴う海面上昇や台風の強大化による高潮対策は考えているのか。
- 現在の高潮堤防の整備は、過去の実績データに基づいて実施しており、将来の気候変動に対する検討は実施していない。台風の進路や過去にどのような台風が発生したかについては、点検の中で整理していく必要があると考えている。
- 雨量の過去のデータを統計学的に処理しているのか。近年の雨量を追加して計画を見直しているのか。
- 近年の降雨を考慮した結果、計画の見直しは実施していない。
- 降雨量の増加の説明資料について、整備計画を点検するうえで参考となるデータの整理、記載方法について、検討していただきたい。
- 今後の整理の中で考えていきたい。

（主な意見）

- 潮位の変動を朔望平均満潮位で示しているが、実際のリスクは最高潮位での整理が重要ではないか。

議事2) 小石原川ダム建設事業に対する事業再評価【資料-2】

- ・水機構より「小石原川ダム建設事業の再評価について」について説明

(主な質問)

- ダムで140m³/sのカットした場合、下流でどの程度の水位低下効果があるか。
- ◎平成24年7月の九州北部豪雨で、浸水被害が発生した江川ダム下流の地区において、ダムがあった場合、70数cmの水位低減効果があったと想定している。
- ダムの目的に流水の正常な機能の維持とあるが、渇水時にどの程度環境に配慮して放流するのか。下流の既得用水の利水の為だけに放流するような書き方となっている。
- ◎流水の正常な機能の維持については、正常流量検討の手引きによる10項目を加味して設定した0.44m³/sを目標に補給するため、必ずしも下流の既得用水の為だけではない。
- 補給により、どの程度の瀬切れが軽減されるのか。
- ◎0.44m³/sを確保できる補給を行えば、基本的に瀬切れが生じないと考えている。
- 小石原川ダムはロックフィルダムだが、非常用洪水吐の容量を十分にとっているか。古いダムでは、最近の異常降雨で非常用洪水吐の容量が足りずにダムの堤体をオーバーフローすることも起きている。
- ◎一般的に非常用洪水吐については、既往最大流量、1/200の確率、クリーガー曲線の3つの方法で設計している。小石原川ダムの非常用洪水吐はこの3つの方法で流量を算出し、最も流量の大きくなるクリーガー曲線により設計しており、920m³/sを放流できる能力がある。
- B/Cが1.1~1.2と非常に小さいのが気になる。
- ◎流水の正常な機能の維持については、身代わり建設費で算出するようになっており、その比率が高いダムでは、計算上B/Cが1.0に近くなってしまう。
- 渇水対策容量はどの便益にカウントされているのか。
- ◎流水の正常な機能の維持による便益に含まれる。
- 容量の表記と合わせて便益も表記したほうが良い。
- 便益として、ダムの残存価値が算定されているが、撤去費用が含まれているのか。
- ◎残存価値の算出については治水経済調査マニュアルに基づいて行っており、撤去費用は含んでいない。
- 筑後川流域では、大山ダムが建設され運用が始まったばかりなのに、どうして新たに小石原川ダムが必要なのか簡単に説明して頂けるとありがたい。
- 大山ダムで充足しきれなかった部分を小石原川ダムでということである。
- 公共インフラの重要性については、一般の方々に理解して頂く為の説明が継続して必要である。

(主な意見)

- 近年の降雨強度の増大を考慮し、今から新規で作るダムは、非常用洪水吐は大きな容量で設計した方がよいのではないか。特にロックフィルやアースフィルではなおさらその方がよいと考える。
- 小石原川ダム単独の評価となっているが、本来は水系全体で評価する視点が必要だと考える。筑後川水系の水資源開発はかなり古くから実施しているが、そのような所が評価には反映されにくいので、数値では反映できない事を出来るだけ情報発信した方がよい。
- 便益算定については、計算できるように割り切って実施しているが、細やかな配慮が必要な時代に入ってきているという感じがする。継続して検討をお願いしたい。

【審議結果】

小石原川ダム建設事業については、原案のとおり「事業継続」で了承。

3. その他

筑後川学識者懇談会の今後の予定について【資料-3】

- ・事務局より、会議資料及び議事録について近日中に公開する。
- ・次回の懇談会の開催は来年度に筑後川水系ダム群連携事業の再評価を予定している。